

透析室における Team STEPPS の取り組み

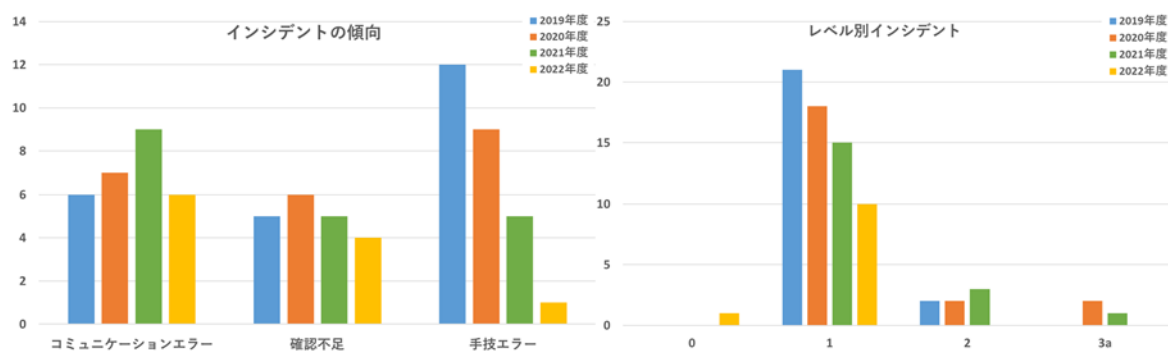
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター

臨床工学部¹⁾、腎臓・高血圧内科²⁾

三浦潤弥¹⁾、今泉糸乃¹⁾、宇野光晴¹⁾、涌井好二¹⁾、奥田晃久¹⁾、渡邊 尚¹⁾、丹野有道²⁾

【背景・目的】

当院は2020年よりCOVID-19感染患者の受入れを開始した。血液透析治療は、陰圧個室に隔離して技士1名が専任であたっている。幸いにもこの間、疑い患者含め急な業務量の変動に柔軟に対応でき、大きな事故などはない。しかし、コミュニケーションや確認不足によるインシデントは増加傾向にある。そこで、医療安全意識を再認識させるため、Team STEPPS のツールを使用した取り組みを行っているので報告する。



【取り組みの内容】

3 ツールの実践回数を見える化し共有する。

① チェックバック促進

チェックバックカードを使用して、実践数をカウントする

② CUS 促進

実践者の自己申告として申告数をカウントする

③ ダブルチェック精度向上

ダブルチェック時のエラー発見数をカウントする

【集計】

期間 2022.09.5～2023-02-13

チェックバック回数 45 回

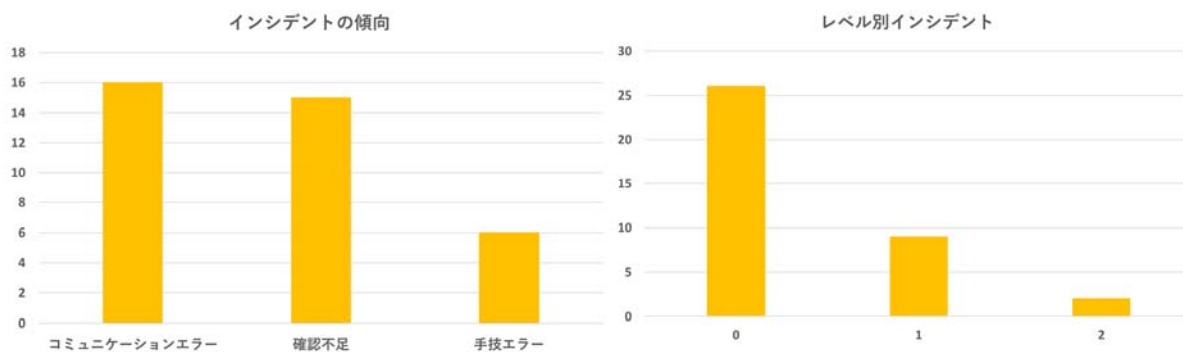
C U S 回数 32 回

ダブルチェックエラー回数 26 回

【結果】

コミュニケーションエラーと確認不足の件数が増加した。

レベル別では、0レベル件数が大幅に増加した。



【考察】

項目別のコミュニケーションエラーと確認不足件数の増加は、インシデント報告の重要性を再認識させたと考える。

また、レベル別では、これまで報告がなかった0レベル件数が大幅に増加した。これも、本取り組みにより、事前に有事を回避できた結果と考える。

いずれも、医療安全への意識向上につながったと考える。

【結語】

形骸化していた3ツールへの意識を再認識させる機会となった。今後も、COVID-19感染者の受入れは当院の使命と考えている。ここでは、お預かりする患者だけでなく、当院の通院患者、また、スタッフの安全確保が必要である。特に、流行期の業務量変動時は、情報の整理とスタッフへの周知が安全を左右する条件のひとつである。本取り組みは、習慣化するまで継続し、医療安全文化の醸成を図りたい。